

処方箋

カルテ番号		発行	年	月	日
病名					
処方	<ul style="list-style-type: none">・薬剤名（一般名）：アスピリン・英名：aspirin・分類：解熱消炎鎮痛剤・分類(略称)：川崎病治療薬・用法：経口（錠、散）・表示区分：なし <p>[禁忌・慎重投与]</p> <ul style="list-style-type: none">・禁忌：過敏症、消化性潰瘍のある患者、アスピリン喘息の既往、出産予定 12 週以内の妊婦、重篤な血液異常、重篤な肝機能・腎機能障害または心機能不全のある患者、出血傾向のある患者・慎重投与：抗凝固剤等 <p>[作用]</p> <p>プロスタグランジン合成の律速酵素であるシクロオキシゲナーゼ（COX）を阻害し、プロスタグランジンの産生を抑制することにより、抗炎症作用、解熱作用、鎮痛作用をあらわす。</p> <p>[適応]</p> <p>関節リウマチ、リウマチ熱、変形性関節症、強直性脊椎炎、関節周囲炎、結合織炎、術後疼痛、歯痛、症候性神経痛、関節痛、腰痛症、筋肉痛、捻挫痛、打撲痛、痛風による痛み、頭痛、月経痛、急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む）の解熱・鎮痛、川崎病（川崎病による心血管後遺症を含む）</p> <p>【アスピリン（抗炎症）PI】</p> <p>禁忌：消化性潰瘍のある患者、アスピリン喘息の既往、出産予定 12 週以内の妊婦、他</p> <p>適用：関節リウマチ、歯痛、頭痛、月経痛、急性上気道炎の解熱・鎮痛、川崎病など</p> <p>作用：COX を阻害し抗炎症作用、解熱鎮痛作用を示す。</p> <p>副作用：消化性潰瘍、出血傾向、喘息発作、肝機能障害など</p> <p>豆知識（3 行）：</p> <ul style="list-style-type: none">●他の酸性非ステロイド性抗炎症薬とは異なり、非可逆的に COX 活性を阻害し特に COX-1 に対する選択性が高い。●ライ症候群と関連性があるため、15 歳未満の水痘・インフルエンザには原則投与しない。●川崎病については急性期慢性期で用量が大きく異なるため注意する。				